

クラス番号	602	担当教員名	木戸 利秋
テーマ	地域文化と福祉の接点から地域づくりを考える ー行政と地域社会のコラボレーションー		
著書・論文	木戸利秋編『新潟の在宅ケアー新しい世紀をみつめてー』とき書房、2001年 木戸利秋編『その笑顔がみたいからー福祉改革期と穂波の里の10年ー』萌文社、2004年 共著『福祉社会開発学ー理論・政策・実践ー』ミネルヴァ書房、2008年		
研究課題等	研究課題：地域ケアと住民自治、イギリスの貧困・社会的排除研究		

ゼミナール概要

キーワード：地域文化、集落自治・住民自治、条件不利地域、地域福祉

目的、内容、方法等：

少子高齢化と人口減少社会の現実がよく現れている地域のひとつが日本の市町村の約半数を占める過疎、離島等、条件不利地域です。これらの地域は、「限界集落」などと呼ばれることがありますが、日本の国土面積に占める割合の大きさから国土保全や日本の自然景観の維持、食糧生産の拠点など重要な役割を担っており、たんに人口規模や効率性の観点だけではない地域の再構築の議論が求められています。

そこでこのゼミでは、条件不利地域の問題を一方ではマクロレベルでの地域再生の議論の動向に注意を払いつつ、社会福祉の側において、地域の再構築にどのように関わって行けばいいのか、行政と地域社会の役割を明らかにしていくことを課題とします。過疎や離島という条件不利地域のなかで、なぜ住民はそこに住み続けたいと思うのか、豊かな自然環境とともに地域の伝統文化や芸能等に囲まれた暮らしが、地域への愛着の形成、住民間のつながりの形成に肯定的に作用している可能性があります。現在、国が「自助、共助、公助」というスローガンのもと、福祉の公的責任を縮小しながら、地域に受け皿づくりを委ねようとする動きが強まる中、地域が本来有している価値に立脚しながら地域づくりを進める条件不利地域は、地域福祉をボトムアップでつくりあげていく可能性を示すものです。

まずゼミでは、地域再生、地域文化と社会福祉に関する文献などを読み、同時に、フィールドワークを通して、地域の文化活動を担っている住民等へのヒアリング調査を行います。3年次はそれらをもとにレポートにまとめ、4年次の課題を明らかにします。

ゼミでの研究活動に加えて、卒業後の就職・キャリアや社会福祉士国家試験対策等についても、ゼミで取り組む予定です。

授業計画： 以下は計画案であり、ゼミで議論して取り組むなかで変わる場合があります。

- 1 オリエンテーション
- 2ー8 地域再生、地域文化と社会福祉に関する参考文献の購読
全体を7回程度のゼミに分けて、議論。
- 9ー11 地域文化と福祉に関する映像の視聴をふまえた討論
- 12ー14 後期の佐渡調査の検討、卒業後の進路について、前期まとめとレポート提出
- 15 前期まとめと後期の課題
- 16ー23 ソーシャルワーク実習セメスター期間。実習はおおむね前半と後半に分かれる。
その時期に実習に該当しない学生グループで、伝統文化の宝庫と言われる佐渡島でのフィールドワーク（2泊3日）を実施。2回実施するので、ゼミ生はいずれかに必ず参加すること。費用は自費が基本。ただしゼミ活動への援助金等を活用。詳しくは初回のオリで説明。
- 24ー27 テキスト購読 適宜指示する
- 28ー30 佐渡調査のまとめとレポート提出、卒論にむけた問題意識の交流、進路の再確認と春休みの課題

担当教員からのメッセージ



これまで自分の町の地域文化に様々な思い出があるという人も多いと思います。このゼミでの学習やフィールドワークを通して、自分の町の良さを再発見でき、そこで自分が働く喜びを見いだせるようになるといいですね。

フィールドワークの体験を通して得られた成果を、自分の卒業研究や就職活動、国家試験勉強のモチベーションにつなげていけるような学びをめざしたいと思います。